

板橋第六小学校 改築計画説明会

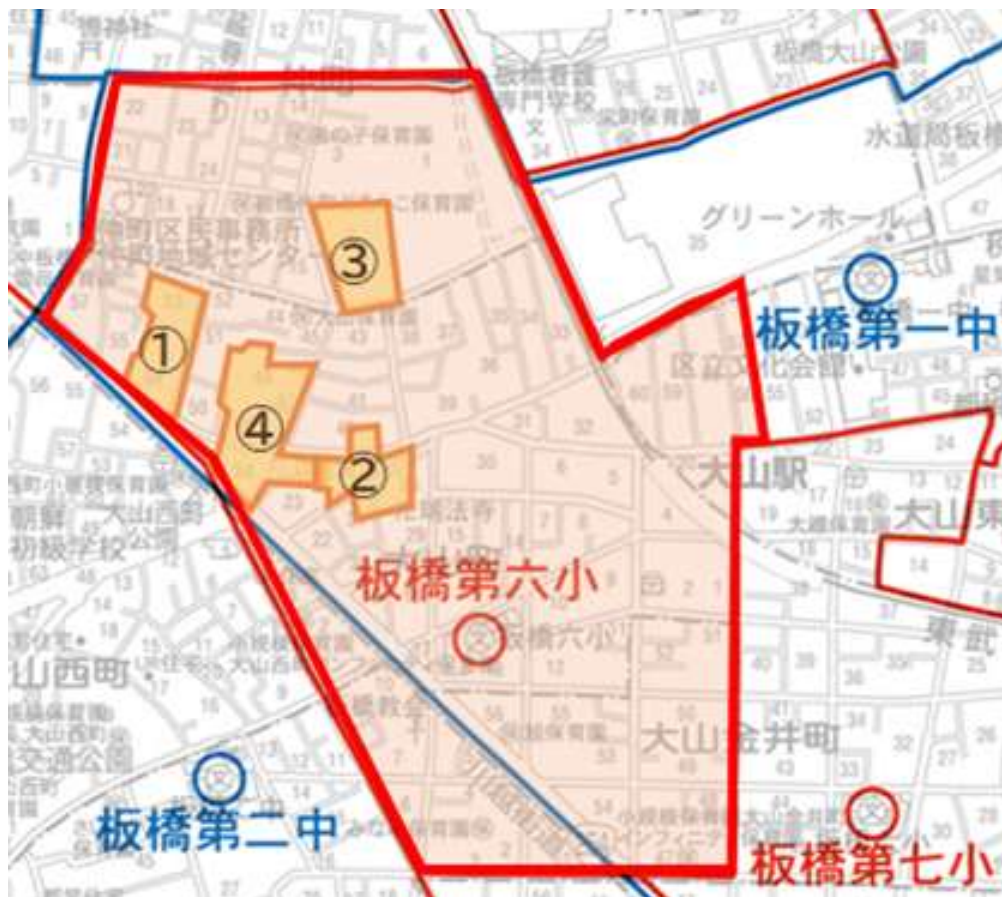
令和7年2月7日・8日

板橋区教育委員会事務局新しい学校づくり課

本日の説明会 の流れ

はじめに

1. 検討の経過
2. 基本構想・基本計画案の内容
3. 今後の予定
4. 意見書の募集



【背景】

● 築約60年を経過

- ・ 本校舎は昭和40～43年にかけて順次竣工
- ・ 理科室・あいキッズ棟は昭和55年竣工
- 近い将来、施設整備の対応が必要

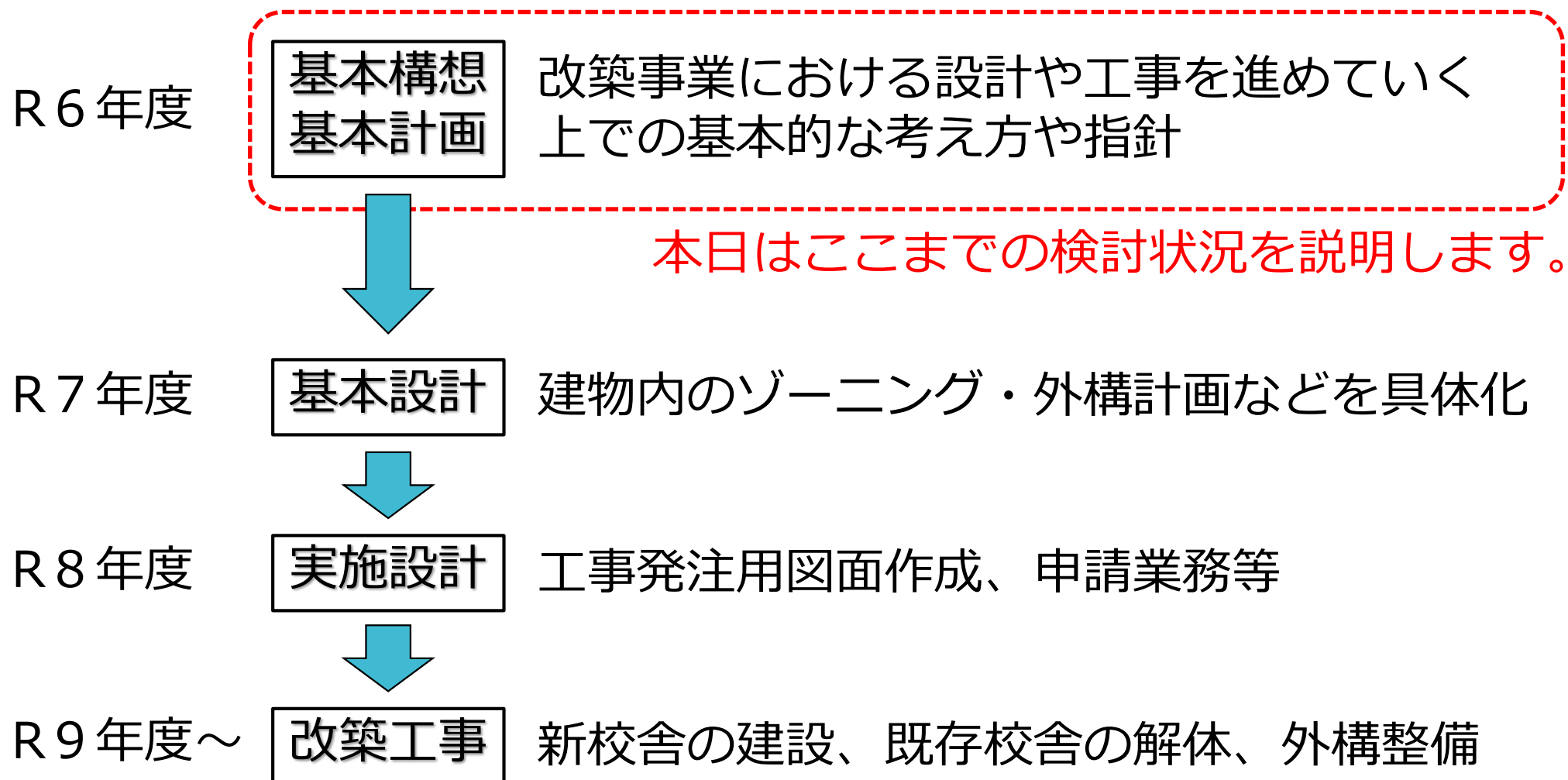
● 通学区域内で大規模集合住宅の建設が集中

- ① ザ・パークハウス板橋大山大楠ノ杜（187戸）完成済
- ② シティワーズ 板橋大山（327戸）R7.9入居開始予定
（大山町加味ノ内周辺地区第一種市街地再開発事業）
- ③ ジオ板橋大山（285戸）R7.4入居開始予定
- ④ 再開発事業（約580戸）R12竣工予定
（大山町ピッコロ・スカイ周辺地区第一種市街地再開発事業）
- 児童数の増加・教室数の不足

【児童数・学級数推移及び将来予測】（令和6年11月1日現在）

	R6	R10	R15	R20	R25	R30
児童数	370	407	643	759	608	400
学級数	13	13	22	24	20	14

※既存校舎での対応可能教室数：16～17教室
 ※令和20年度前後に学級数がピーク：24学級



新しい学校の建替えのコンセプト、建物の配置・規模等を検討しました。

令和6年5月

計画策定支援事業者を決定しました。▶（株）教育施設研究所

令和6年6月

板橋第六小学校改築検討会を立ち上げました。

令和6年7月

第1回改築検討会を開催しました。

令和6年7～9月

改築アンケートを開催しました。

令和6年7月

第1回ワークショップを実施しました。

令和6年8月

板橋第十小学校を視察しました。

令和6年9月

第2回改築検討会を開催しました。

令和6年10月

第2回ワークショップを開催しました。

令和6年11月

第3回改築検討会を開催しました。

令和6年12月

第4回改築検討会を開催しました。

令和6年12月

第3回ワークショップを開催しました。

令和7年1月

第5回改築検討会を開催しました。



令和7年2月 改築計画説明会の開催

実施時期

令和6年7月上旬～9月末

対象

板六小の児童・保護者、教職員

地域の方（CS委員、通学区域に係る町会役員等）

実施方法

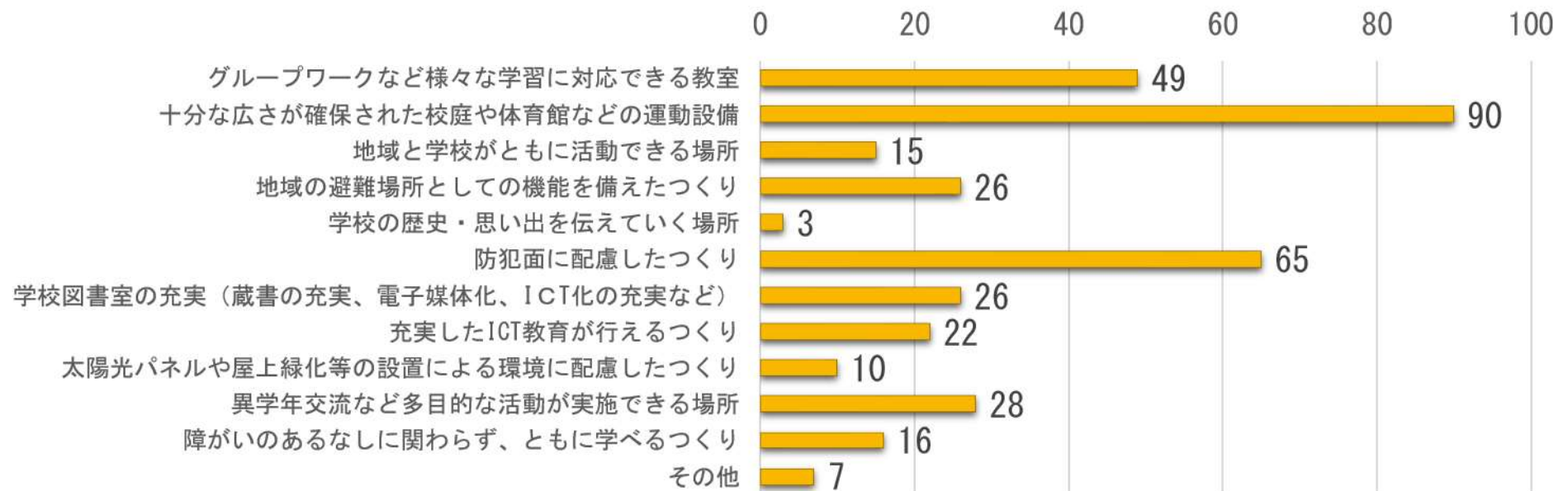
アンケート用紙、WEBアンケート

配布数等

配布数450通、回収数120通、回収率26.7%

Q1「こどもたちの学びで、特に重要だと思うもの」は何ですか？
(上位3つ)

- 1 番目 十分な広さが確保された校庭や体育館などの運動施設
- 2 番目 防犯面に配慮したづくり
- 3 番目 グループワークなど様々な学習に対応できる教室



1～3位に選んだ項目の回答数比較



- ・ 建替えのコンセプト【学習・教育】【安全・安心】【環境・緑化】に反映しました。
- ・ R7～の基本設計で、部屋の配置や大きさを具体的に検討していきます。

Q2 板六小で「思い入れのあるもの」「気に入っているところ」

- ・ 商店街と連携した学習・行事
 - ・ 卒業制作品、人工芝の校庭、資料室
 - ・ いろんな果物の木があること
- など、さまざまな意見をいただきました。

Q3 新しい校舎で「やってみたいこと」

- ・ 屋内でのプール授業
 - ・ 学校での宿泊体験
 - ・ 異学年交流
 - ・ 地域と連携した講座やイベント（文化・スポーツ・交流・防災）
- など、さまざまな意見をいただきました。



- ・ 建替えのコンセプト【生活・居心地】【地域・歴史】に反映しました。
- ・ 卒業制作品や既存樹木は、どこまで残せるか検討していきます。
- ・ 多目的に利用できる部屋について、設置を検討していきます。

実施日

令和6年7月30日

対象

板六小の保護者（PTA）
教職員、地域の方（CS委員）



実施方法

グループワーク形式（5～6名4グループ）

テーマ

1 どんな学校をつくりたいか考えよう！
〔目的〕新しい学校のコンセプトづくり

2 学校の大きさはどうなる？
〔目的〕模型を使った建物の位置や大きさの確認

主な意見

テーマ1 どんな学校をつくりたいか考えよう！

【使いやすさ・快適さ】

- ・ **木材を活用**したあたたかみのある学校
- ・ 緑のカーテンを常設（温度を下げる・自然に触れる）
- ・ **多目的対応**可能な体育館（講堂・ホール・舞台）
- ・ GIGAスクール、次世代を目指した学校

【地域開放】

- ・ できる限り**地域に開放**（体育館・プール・図書館・家庭科室・多目的ホール、空き教室など）

【多様な居場所】

- ・ 学年ごとに集まる**オープンスペース**
- ・ 思い切り**遊べる空間**
- ・ **落ち着ける場所**

【様々な体験・学習・出会い】

- ・ 緑が多く、**環境教育**に取り組める学校
- ・ **“経験できる”**体験格差を感じない学校

【安全・安心】

- ・ **防災・防犯**の拠点や学びができる学校
- ・ 死角がなく、見渡しやすい校舎

【その他】

- ・ **バリアフリー**の充実
- ・ **太陽光発電**の取り入れ（エコへの意識）
- ・ **屋上の有効活用**

など、さまざまな意見をいただきました。



- ・ 建替えのコンセプト、個別の計画目標に反映しました。
- ・ R7～の基本設計で、部屋の配置や大きさを具体的に検討していきます。

主な意見

テーマ2 学校の大きさはどうなる？

敷地南配置（段階整備）案



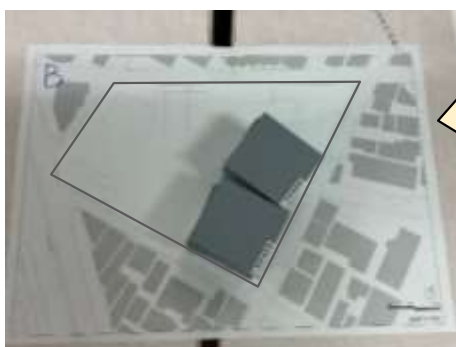
- ・アリーナは地下へ
- ・屋上を運動スペースで活用
- ・学校へのアプローチは東側
- ・ピロティがあると良い
- ・段々形状の校舎

敷地南配置（I期工事）案



- ・なるべく短期間の工事で
- ・アリーナは地下へ
- ・屋上を運動スペースで活用
- ・校庭を広く確保
- ・エレベーターが必要

敷地東配置（段階整備）案



- ・6階建ては上下移動が大変
- ・ピロティの昇降口により雨の日も使いやすく
- ・使いやすい校庭形状に配慮した建物

屋上グラウンド（人工地盤）案



- ・地域住民の意見にも配慮した建物高さ
- ・屋上を校庭にする
- ・門は駅に近い方に設ける



- ・各案を基に校舎の配置検討を行いました。
- ・活用できそうなアイディアは個別の計画目標に反映しました。

実施日

令和6年10月15日

対象

板六小の児童（4年生）

実施方法

グループワーク形式

（4名7グループ×2クラス）

：24枚の事例写真の中からいいなと思う写真を選んで、グループで理由を話し合う

テーマ

板六小にこんな場所があったらいいなと思う写真を選んで、理由を考えてみよう！



1. 検討の経過

第2回ワークショップ

12

各写真の●印は、グループ発表で取り上げられた得票数を表す。なお、クラス別に赤と青で色分けを行っている。

児童ワークショップ「板六小にこんな場所があったらいいなと思う写真を最大3枚選んで、理由を考えてみよう！」

2024年10月15日



※ビオトープ：地域の生き物の生息場所（池・草地・樹木など）

結果集計表

	選択肢	1組票数	2組票数	合計
1	床に座れる		1	1
2	本に囲まれた場所		1	1
3	いろんな家具			
4	大きな窓がある	6		6
5	学校の歴史を飾れる	1	1	2
6	ランチルーム			
7	自由な活動場所	1	1	2
8	集まれる場所			
9	壁に書ける	2		2
10	発表できる場所			
11	こどもだけの小さな場所	3	5	8
12	廊下にあるベンチ	3		3
13	運動もできる多目的スペース	1	1	2
14	明るいトイレ			
15	色のついた階段			
16	教室のそばに先生の居場所	1		1
17	外にあるステージ			
18	遊べる屋上			
19	雨にぬれない遊び場	1	1	2
20	大きな花だん			
21	しばふ広場	1		1
22	地域の人との交流場所			
23	いろんな遊具	1	6	7
24	植物のあるビオトープ	2	2	4

※各グループが発表した項目を集計しています

主な意見

4番

- ・自然が見えると落ち着く
- ・緑が見えると集中できる

1 1番

- ・気持ちを切り替えたり、落ち着かせることができる
- ・ひみつきちみみたいで楽しそう

2 3番

- ・たくさんあると飽きない
- ・鍛えられて丈夫になる
- ・混まないでみんなで遊べる



- ・建替えのコンセプト、個別の計画目標に反映しました。
- ・気に入った「理由」に着目して、空間づくりに反映していきます。

実施日

令和6年12月18日

対象

板六小の保護者（PTA）

地域の方（CS委員）

実施方法

グループワーク形式

テーマ

1 地域とともにある板六小とは？

〔目的〕 板六小で開催したい地域イベント等を考える

2 地域に開かれた部屋を考える

〔目的〕 テーマ1を実現するために地域開放、地域連携する部屋のつながりを考える

主な意見

テーマ1 地域とともにある板六小とは？

どこで	何をする	検討事項
グラウンド・屋外	・お祭り、盆踊り（未舗装の校庭で） ・火を使うイベント（キャンプファイヤー、焼き芋、花火など） ・マンホールトイレ、かまどベンチ、炊き出し	イベント時・災害時の利用方法 校庭や外構の舗装の工夫
地域開放・地域連携	・地域連携室・PTA室は分けて、それぞれが使いやすいように ・防災備蓄倉庫は学校敷地内に入らなくても使える場所へ ・会議室、町会行事、投票所等、多目的に利用できるスペース ・学校エリアから地域開放エリアが見えるスペース ・地域も利用可能な駐輪場	狭小敷地での工夫 セキュリティ区画の工夫 アクセスしやすい配置 多目的利用できるスペース 将来転用も含めた検討
体育館	・地域の防災訓練（大規模地震を想定した備え） ・災害時の一次宿泊所としての利用	災害時での利用のしやすさ
畳の部屋・縁側	・和室（たたみ）、ふすまなど従来の生活場面を体験させたい ・かるたや華道教室、寝そべりながらリラックスできる環境	しつらえ・素材感の工夫
その他	・大山の歴史資料館 ・ビオトープなど緑に触れ合える	地域と学校の歴史の継承 自然とのふれあい

など、さまざまな意見をいただきました。

- ・個別の計画目標に反映しました。
- ・R7～の基本設計で、部屋の配置や大きさ、しつらえを具体的に検討していきます。

主な意見

テーマ2 地域に開かれた部屋を考える

グループワーク【部屋のゾーン分けシート】

2024年12月13日

テーマ②（テーマ①を実現するために）地域開放、地域連携する部屋のつながりを考えよう

非開放ゾーン

普通教室や理科室、職員室など
安全性を担保したい部屋を配置

地域連携ゾーン

多目的室、地域連携室など
地域と学校が連携する際に
利用する部屋を配置

地域開放ゾーン

地域の方だけでも利用ができる部屋
を配置

ホール受付

【避難者受付】

地域開放用玄関

防災
備蓄
倉庫

【災害時開放】

出入口

- 【不登校児童の居場所】
- ・普通教室とは別室
- ・安心して過ごせる空間

- 【セキュリティ】
- ・不審者対策・防犯対策
- ・見守る関係性は必要

- 【様々な人の利用】
- ・授乳室やバリアフリー対策
- ・駐輪場の確保
- 【多目的な利用・季節】
- ・イベント（火の利用）
- ・ボールの飛び出し防止
- ・水飲み場、トイレ

- 【和室】
- ・体験できる空間
- 【屋内プール】
- ・将来的に地域開放も
- ・熱中症対策

- 【使いやすさ】
- ・外から直接出入り
- ・気軽に利用できる位置

- 【出入りのしやすさ】
- ・履き替えなしで校舎内
に出入りできるように
（一足制）
- ・アクセスしやすい門

- 【豊かな外部空間】
- ・緑が感じられるように
- ・歩道や広場の設置

- ・個別の計画目標に反映しました。
- ・R7～の基本設計で、部屋の配置や大きさ、しつらえを具体的に検討していきます。

共通の
方針



学校施設整備における方針

- ・新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について※
- ・ウェルビーイング向上のための学校施設づくりについて※
※文部科学省の示す方針
- ・板橋区立学校施設標準設計指針



地域
特性



整備条件

- ・学校の現状
- ・法的条件
- ・敷地条件

地域意見

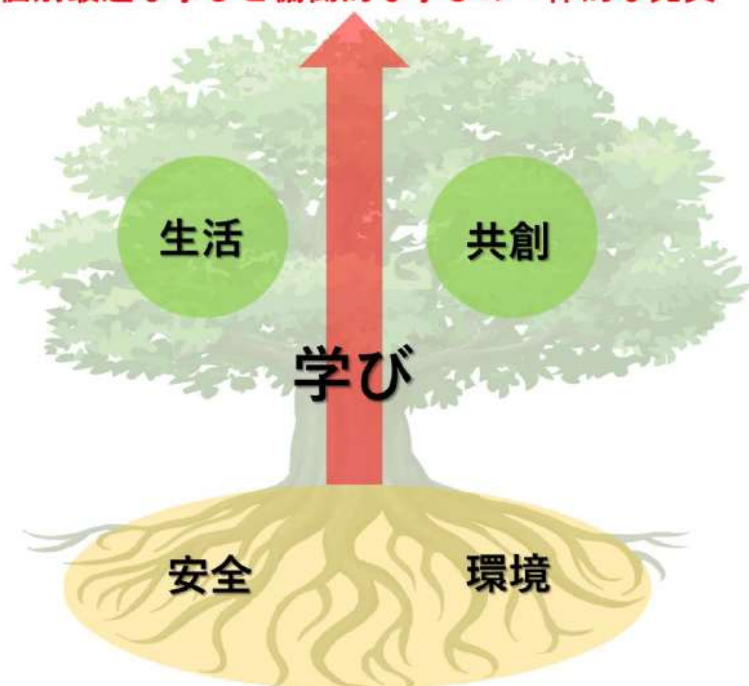
- ・アンケート
- ・ワークショップ
- ・検討会



基本構想・
基本計画

- ・建替えのコンセプト
- ・建物規模
- ・配置計画

全ての子供たちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



新しい時代の学び舎として目指していく姿（イメージ図）

新しい時代の学び
舎として創意工夫
により特色・魅力
を発揮

新しい時代の学び
舎の土台として着
実に整備を推進

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

- 学び ≫ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現する
- 生活 ≫ 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現する
- 共創 ≫ 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現する

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

- 安全 ≫ 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現する
- 環境 ≫ 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現する

2. 基本構想・基本計画

ウェルビーイング向上のための学校施設づくりについて（文部科学省）

19

ウェルビーイングとは

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

日本社会に根差したウェルビーイングの向上



ウェルビーイング向上のための学校施設づくりのアイデア集（令和6年9月）

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められます。

「共創」「生活」「学び」「環境」「安全」の5つの観点から、新しい時代の学びを実現する学校施設のアイデアとその実現プロセスについて事例を収集（72校の事例・89のアイデア）

個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイング（獲得的要素）

- ・自己肯定感
- ・自己実現 など

人とのつながり・関係性に基づくウェルビーイング（協調的要素）

- ・利他性
- ・協働性
- ・社会貢献意識 など

両者を調和ある形で一体的に向上させていくことが重要



板橋第十小学校のオープンスペースの活用方法も紹介されています。



「板橋区立学校施設標準設計指針」

視点1

安心・安全で居心地の良い学校

- ・ 心身の成長の場
- ・ ゆとりある生活空間
- ・ 防犯性が高い施設 等

視点2

主体的・協働的な学びができる学校

- ・ 避難拠点としての機能
- ・ 地域関係者が学校を支えていくための拠点 等

視点3

地域と連携・協働する学校

- ・ 35人学級、少人数教室
- ・ タブレットの活用 等

視点4

環境に配慮した学校

- ・ SDG s への貢献
- ・ 脱炭素社会 等

「（仮称）いたばし魅力ある学校づくりプラン2035（骨子案）」

新しい時代の学校整備に向けて

今後の学校整備では、教育環境の変化に対して柔軟に対応できる施設を整備することに加えて、学校教育のみを考えるのではなく、防災・地域連携・環境への配慮・生涯学習との繋がりといった機能や視点を持ち、地域資源や地域特性を生かした、特色ある学校づくりを行っていく。



地域資源や地域特性を生かしながら
将来を見据えた学校施設をつくる

【学習・教育】 変化に対応しやすい柔軟な学習空間の形成

- ・ 学校全体で多様な体験・学習・教育を受け止める学びの場
- ・ 児童数増減に柔軟に対応しやすい教室など将来の変化に配慮した校舎

【生活・居心地】 様々な体験と出会いを大切にする豊かな生活環境の創出

- ・ 好奇心を触発する様々な出会い、人と人の出逢いを大切にする環境
- ・ 自律と自立を支援し、多様な選択肢のある空間を大切にした施設

【安全・安心】 安全が安心を生み児童と地域を守るみんなの家の形成

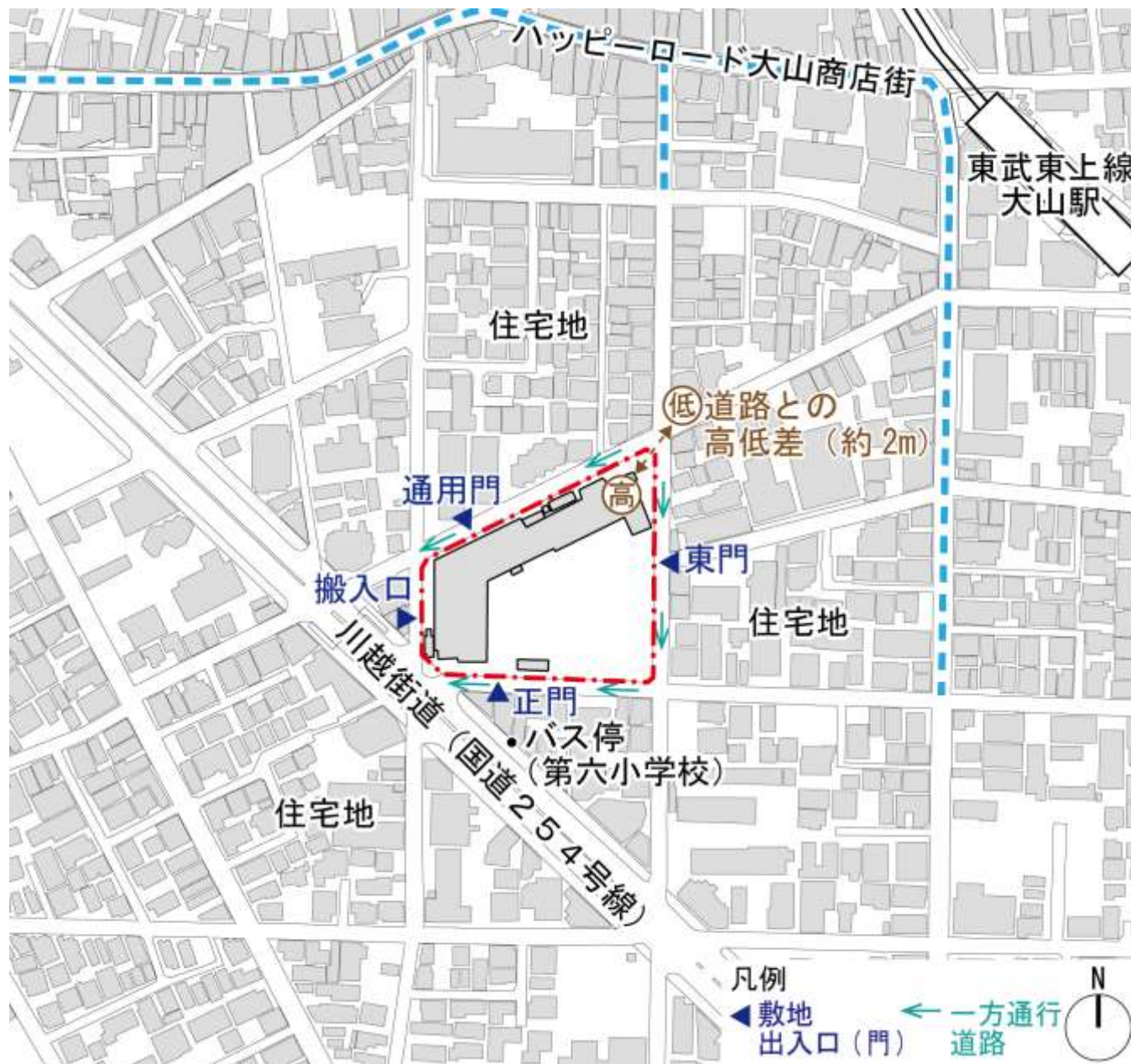
- ・ 死角が少なく、見渡せる環境とケガや衝突が起こりにくい工夫により、安全な生活の場
- ・ 児童への防犯を高め、地域の命を守る、安心して過ごせる学校

【環境・緑化】 健やかな心と体を育成する多様な居場所の提供

- ・ 遊具や球技が思い切りできる校庭や様々な場所で体を動かしたくなる屋外環境
- ・ 緑を大切に憩いとくつろぎがある環境や明るく風が通る快適な校舎

【地域・歴史】 歴史を継承し地域と子どもの夢と希望を育むまちの施設づくり

- ・ 100周年を迎える歴史に支えられ地域に根差した共育・共働による生涯学習施設
- ・ 大山駅周辺地区として地域に開かれ、にぎわいを活性化する地域コミュニティ拠点



ハッピーロード大山商店街
【出展：ココロマチHPより】



川越街道 (国道254号線)

2. 基本構想・ 基本計画

計画条件_都市計画等の状況

24

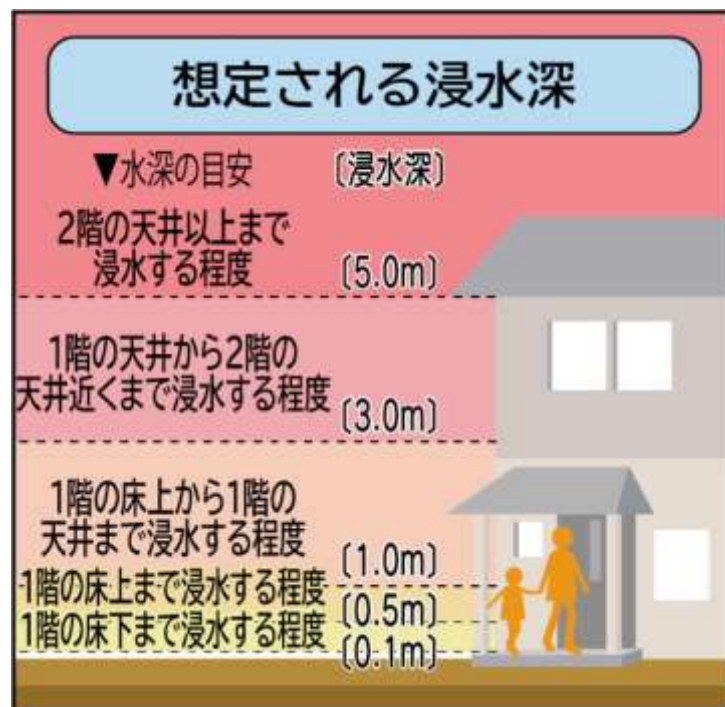
用途地域	南西側道路境界線より30mの範囲 商業地域	左記以外の範囲 第二種住居地域（過半）
建蔽率	80%	60%
容積率	500%	300%
防火地域の指定	防火地域	準防火地域
高度地区	最高限度45m、最低限度7m	第三種高度地区、最高限度35m
日影規制	なし	5時間-3時間/4m
地区計画	大山駅西地区地区計画（地区区分：なし） 国道254号線（川越街道）A地区沿道地区計画 （地区区分：ハ）	大山駅西地区地区計画 （地区区分：住宅地区）

一低	第一種低層住居専用地域
一中高	第一種中高層住居専用地域
二中高	第二種中高層住居専用地域
一住	第一種住居地域
二住	第二種住居地域
準住	準住居地域
近商	近隣商業地域
商業	商業地域
準工・特	準工業地域（第二種特別工業地区）
準工	準工業地域
工業・特	工業地域（第一種特別工業地区）
工専・特	工業専用地域（第一種特別工業地区）
工専	工業専用地域



【出展：板橋区用途地域図】

敷地北側一部について、想定最大規模降雨時0.1m～0.5m未満の浸水リスクが想定されるため、屋内運動場や防災備蓄倉庫、防災設備機器の設置階について十分に検討する必要がある。



児童数増加により教室数が不足した場合、仮設校舎の建設想定位置を考慮した校舎位置を検討する。

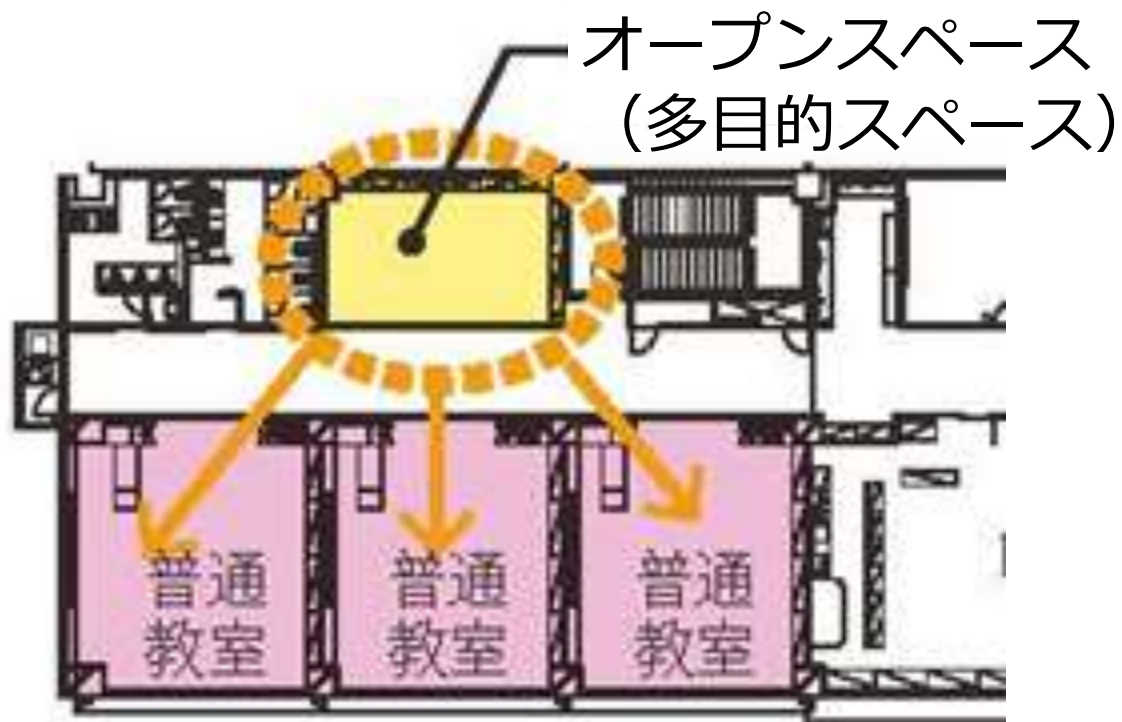


■ 主な計画条件

- 児童推計の24学級（最大値）にて設定
（+ 3 学級程度は少人数教室等の転用にて対応）
- オープンスペース方式での運営
- 特別教室の利用率は80%以下
（80%を超えるとカリキュラムを組むことが困難）
- 普通教室は、約68m² ※既存教室は63m²程度
（机の新JIS規格対応、様々な学習形態への対応）



計画目標床面積 約9,800～10,800m²程度



板橋第十小学校

教室に隣接した空間に「オープンスペース」を設置し、教室と一体となった大きな空間を活用して、個別学習・協働学習・発表活動等の主体的・能動的な学習活動（アクティブラーニング）を行っています。

導入校

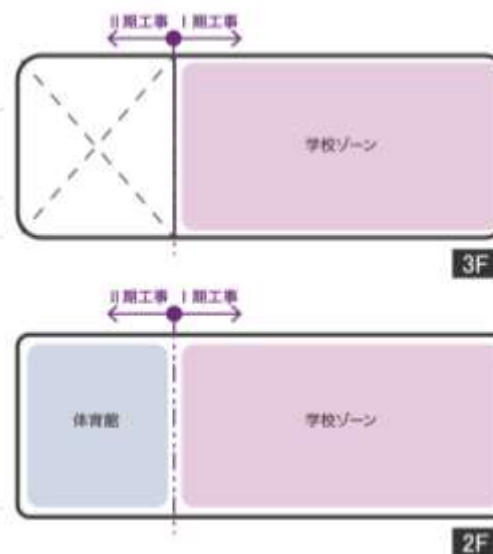
北前野小、富士見台小、板七小、北野小、金沢小、加賀小、赤塚新町小、大谷口小、板一小、板十小、志村小・志四中（予定）

項目	計画目標
普通教室まわり	・ロッカーは可動式にする、背面を板書面にする等、柔軟な学習空間を形成できる計画とする ・オープンスペースは多様な学習活動に対応できるよう普通教室に近接して計画する ・廊下やホールなどの共有部に憩いの場となるベンチコーナーや居場所となる小空間の設置等、個別最適な環境に配慮した計画とする
少人数教室	・学級数の変化に対応するため、普通教室へ容易に転用できる設えとする
メディアセンター (図書室)	・各教室から利用しやすく、図書を身近に感じられるよう学校の中心となるような配置とする ・図書の閲覧等だけでなく、調べものの学習や学習発表等、多様な授業展開ができる計画とする
多目的ホール	・学年集会や異学年交流等といった学校活動や地域の集会等、多目的に使用できる計画とする ・各教室からだけでなく、地域住民や外部講師等も利用しやすい位置に計画する
校内別室	・教室以外の居場所として、安心して過ごすことができるよう、設置位置も含め環境に配慮した計画とする ・落ち着きやリフレッシュするための場所として、内装や家具にも配慮した計画とする
屋外運動場・ 屋内運動場	・のびのびと運動ができるよう十分な大きさを確保する ・校庭は人工芝を基本とするが、一部舗装を変えてイベントや防災訓練等に活用できるよう検討する ・災害時の避難場所になるため、屋外運動場と屋内運動場は行き来しやすい計画とする ・敷地が狭隘であるため、屋上運動スペースを設けることを検討する
プール	・猛暑日におけるプール授業の中止やプール設置の拠点校化を鑑み、屋内プールを検討する ・設置場所により、上下移動距離が長くなる場合は、移動手段、方法について検討を行う ・プールを利用しない時期は、多目的利用ができるなど空間の有効活用を検討する
外構・みどり	・雨天時の遊び場になり、また校舎内への出入りがしやすくなるようピロティを検討する ・身近に自然に触れ合え、感じられるような緑化計画とする

項目	計画目標
動線計画・ゾーニング	・児童の日常的な上下階の移動の負担が少なくなるような動線計画とする ・地域利用や休日等の校舎利用ゾーンを設定し、適切な管理ができる計画とする ・将来的な空き教室の転用も想定し、階段や廊下の位置をバランスよく計画する
構造計画	・災害時の避難所となることから、人命の安全確保に加えて機能確保が図られるよう、十分な安全性を確保する ・経年劣化や環境条件による影響に対して十分な耐久性を確保するとともに、修繕やメンテナンス性にも配慮する ・将来的な施設機能の変化にフレキシブルに対応できるよう、適切な柱の配置とする
防犯・安全計画	・日常的な学校運営における防犯・事故防止対策を図るため、死角や隠れ場所が少なくなるよう計画する ・地域開放時におけるセキュリティ等に配慮した計画とする。
防災計画	・避難場所としての役割を果たす防災機能・避難所機能を確保する ・マンホールトイレの設置等を検討する
環境配慮	・ZEB認証の取得を前提に計画する ・環境教育につながるよう太陽光発電設備や、緑のカーテン等環境教材となる設備を計画する
地域連携・協働	・地域とともに歩んできた学校の歴史を未来に継承する展示空間等を計画する ・地域コミュニティの拠点や活性化につなげるため、可能な限り地域に開放するよう検討する ・地域連携等で使用する部屋は、外部からアクセスしやすく、また子どもたちの見守りができるような位置に計画する
その他	・児童、教職員、地域利用者及び災害避難者等の多様な利用者が快適に利用できるようユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮した計画とする ・来校者の目に触れやすい昇降口や、落ち着きや親しみやすさを求めるメディアセンターを中心に木質化し、豊かな教育環境づくりを行う

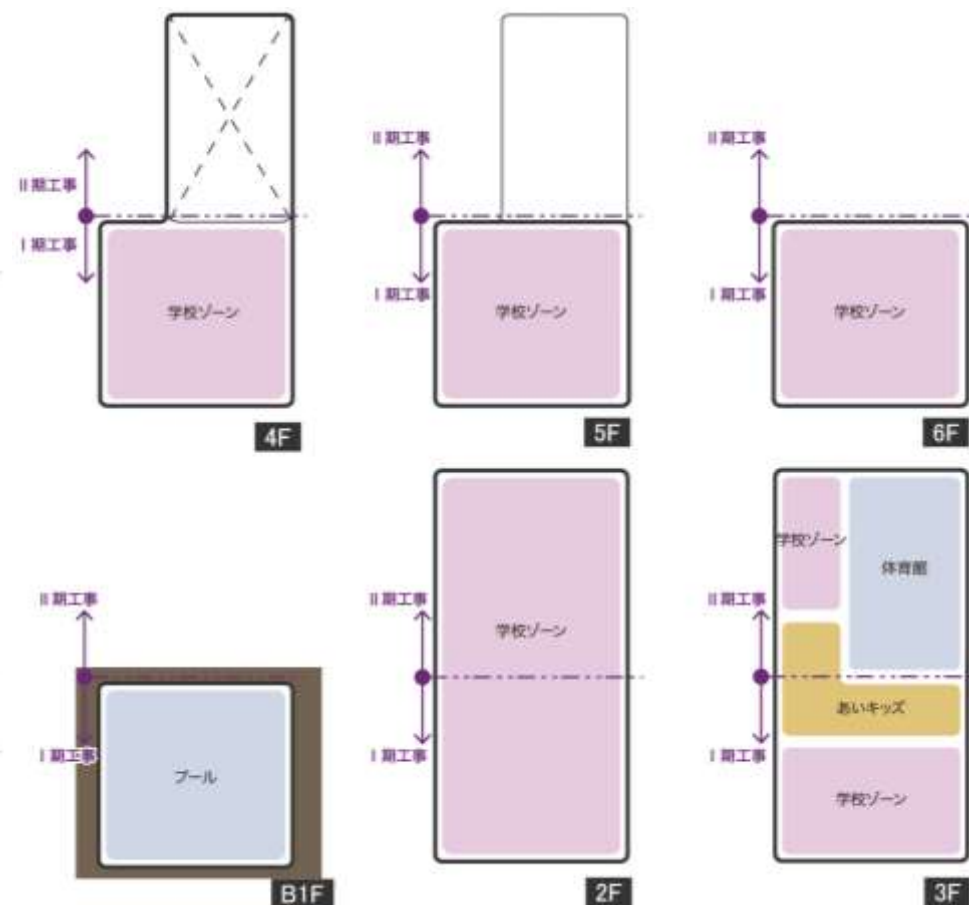
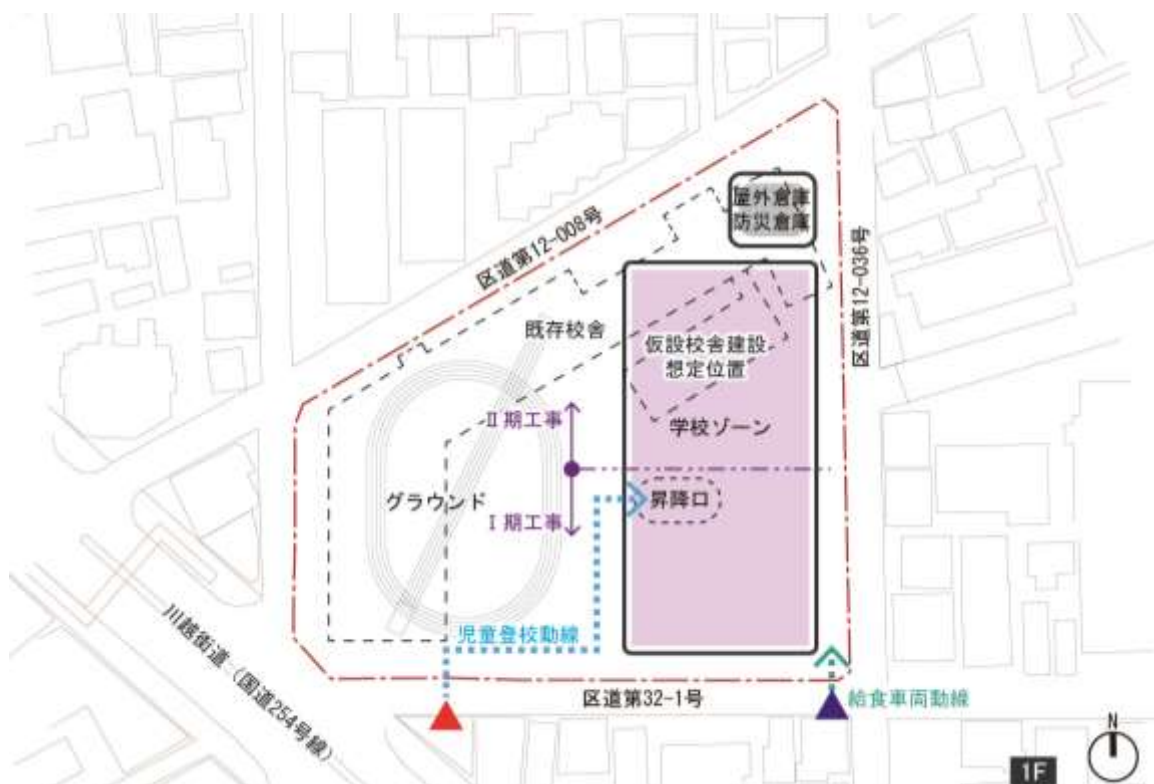
A案：敷地南側配置（段階整備）案

- ・敷地南側に新校舎、北側に校庭を配置
- ・段階的に整備を行うこととし、既存校舎の西側を先に解体する
- ・Ⅰ期工事にて必要な普通教室数を確保する



B案：敷地東側配置（段階整備）案

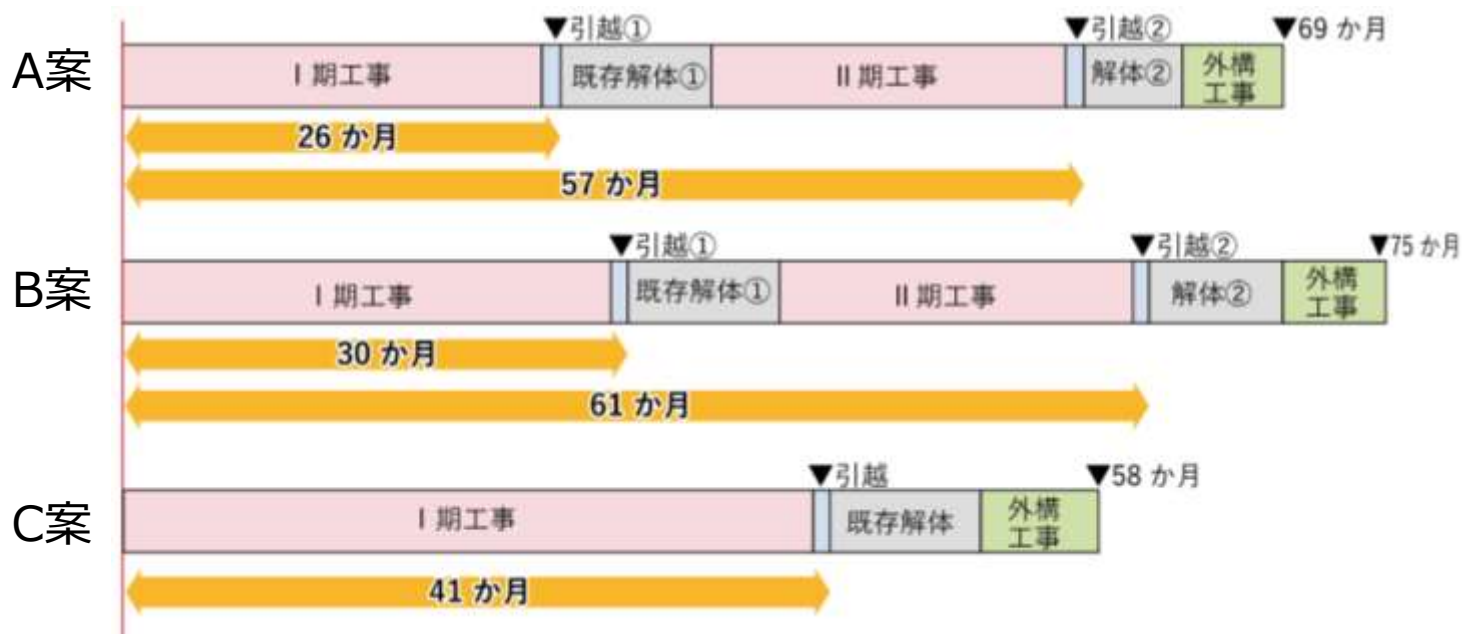
- ・ 敷地東側に新校舎、西側に校庭を配置
- ・ 段階的に整備を行うこととし、既存校舎の東側を先に解体する
- ・ I 期工事にて必要な普通教室数を確保する



C案：敷地南側配置（Ⅰ期整備）案

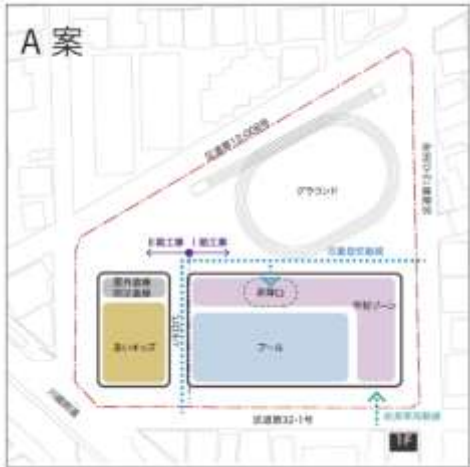
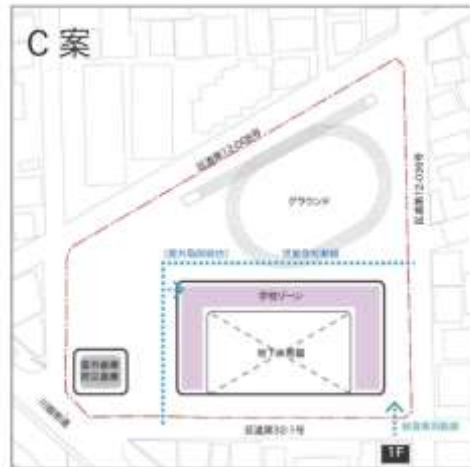
- ・敷地南側に新校舎、北側に校庭を配置
- ・新校舎はⅠ期で整備を行うこととし、新校舎完成後に既存校舎を全て解体する
- ・Ⅰ期工事にて必要な全ての教室・居室を確保する





案	学校ゾーンの引越までの 期間（Ⅰ期工事）	建物完成 （Ⅱ期工事）	全体工期 （外構含む）
A案	2年2か月（26か月）	4年9か月（57か月）	5年9か月（69か月）
B案	2年6か月（30か月） ※既存校舎を一部利用	5年1か月(61か月) ※学校ゾーンの引越完了	6年3か月（75か月）
C案	3年5か月（41か月）		4年10か月（58か月）

※今後の設計で変更となる場合があります。

配置計画比較表		A案 敷地南側配置（段階整備）	B案 敷地東側配置（段階整備）	C案 敷地南側配置（段階整備なし）
校舎配置イメージ				
階数		地上 5 階程度	地下 1 階 地上 6 階程度	地下 1 階 地上 7 階程度
移動の負担		中	大	大
校庭の大きさ・広場		中 + 屋上広場を設置可能	中	大
学校ゾーンの引越		2 年 2 か月	2 年 6 か月 ※既存校舎を一部利用	3 年 5 か月
全体工期		5 年 9 か月	6 年 3 か月	4 年 10 か月
近隣への圧迫感		小	中	大
コスト		中	やや高め	高め

※今後の設計で変更となる場合があります。

2. 基本構想・ 基本計画

工事の進め方（予定）

36

STEP1 新校舎（Ⅰ期）工事



STEP2 既存校舎解体①



STEP3 新校舎（Ⅱ期）工事



STEP4 既存校舎解体②+プール改修

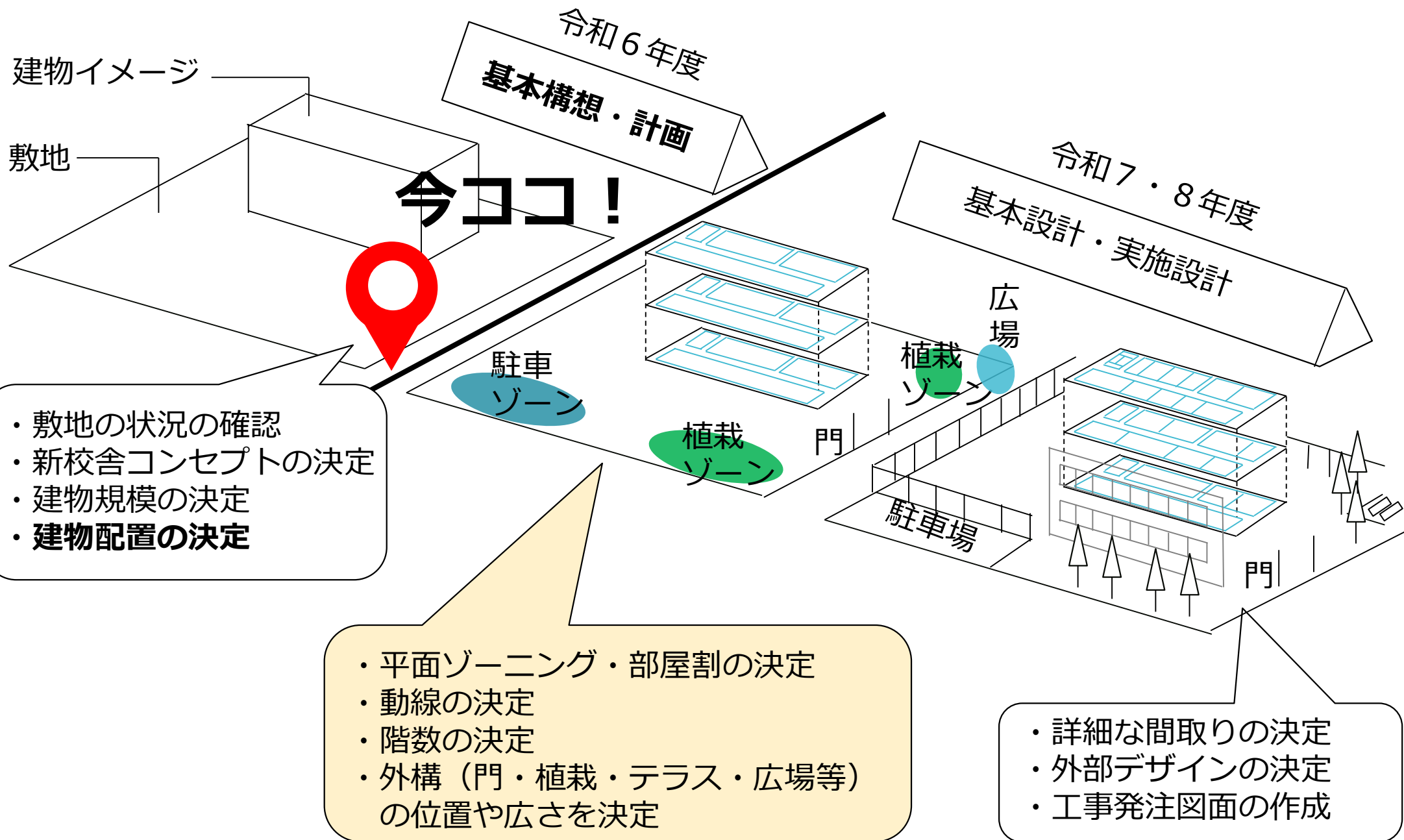


STEP5 グラウンド整備



凡例	使用建物	工事建物
	仮設校舎	解体建物
	工事エリア	

※今後の設計で変更となる場合があります。



令和7年2月7日・8日	基本構想・基本計画（案）説明会
～令和7年2月25日	意見書の募集
令和7年2月下旬	基本構想・基本計画の決定
令和7年4月上旬	基本設計・実施設計業務委託事業者の決定
令和7年度中	基本設計 ➡改築だより等で進捗状況をお知らせします。
令和8年3月頃	基本設計説明会

4. 意見書の募集について

説明会の内容、基本構想・基本計画（案）について、意見書を提出することができます。

提出方法

- ① 用紙での直接又は郵送による提出
- ② FAX 03-3579-4214
- ③ メール ky-gkeisui@city.itabashi.tokyo.jp

提出期限

令和7年2月25日（火）正午まで

提出先

板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり課
学校整備係（北館6階12番窓口）
〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目66番1号

注意事項

- ・内容を正確に把握するため、ご意見等の電話での受付は行いません。
- ・いただいたご意見等に対する回答については、取りまとめて後日ホームページ内にて公表いたします。個別の返信や回答は行いませんのでご了承ください。

ご清聴ありがとうございました。